

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

「青少年の健全育成『住居を喪失した、元非行少年・少女の社会的居場所創出・維持』事業

本気で更生したいと考える若者の自立を支援することで再犯にいたる流れに歯止めをかけて生きる力を育む

親や頼れる大人を失った子どもを守るのが「児童福祉」だが、いったん非行を犯した子どもは保護の対象外になることもある。しかも、非行を犯す子どもの背景には親の養育態度など、生育環境に問題があるケースが少なくない。それが負のスパイラルへの入口にならぬよう、更生を目指す少年・少女の自立支援を行う団体が東大阪市にある。



更生を目指す少年や少女が入居する自立支援シェルターを整備



開催したシンポジウムを告知するチラシ

更生のための自立支援シェルターの提供で非行から抜け出す社会づくりに取り組む

一口に「非行」という言葉で括られることの多い少年・少女の問題行動や犯罪だが、その背景には様々な事情や問題がある。その中でも大勢を占めるのが、保護者の養育態度に問題のあるケースで、ネグレクト(養育放棄)を含む虐待、蒸発や死去を伴う一家離散などにより、心身の孤独や飢えに耐えかね、そこから問題行動や犯罪に走ることが少なくない。しかも、その後保護者からの引き取り拒否にあい、帰住先を失うケースもある。少年犯罪の再犯率は毎年、過去最高を更新し、2015年には36.4%(法務省調べ)と高い数字になっている。

また、児童養護施設などで育つ少年・少女たちの中には、非行や犯罪によって施設退所を余儀なくされるケースもあり、児童福祉の観点から社会的擁護の期間内にあるにも関

わらず、生活拠点がなく、反社会的集団や性産業に流入するパターンも少なくない。

しかし、そのような子どもたちの中にもやり直したいと願い、更生を誓う人がある。そうした少年・少女たちを対象に、安心して更生に集中できる社会的居場所(自立支援シェルター)を整備し、地域社会での自立支援と自立後の見守りを行うことで、非行から抜け出すための社会づくりをしようとしているのが、東大阪市に拠点を置く「NPO法人チェンジングライフ」である。

団体の理事長である野田詠氏さんは、「非行や犯罪に走る子どもは加害者ではあるけれど、生育環境などの被害者であることを見落としてはいけない」と話す。立ち直りを目指す少年・少女は、弁護士、保護観察官、児童相談所の職員などから紹介されてくるという。

生活拠点の準備ときめ細かいケアによって被支援者が支援者になるサイクルを築く

チェンジングライフでは2011年のNPO法人化とともに、民間のワンルームのアパートを借り上げ、そこを自立支援シェルターとして更生を目指す少年・少女に入居してもらう事業に本格的に取り組んできたが、2017年度はAJOSCの助成を受け、東大阪市内に4室を新規で確保でき、自立支援シェルターは計6室になった。

そこに生活に必要な家電(冷蔵庫、洗濯機など)や生活必需品、食材などを準備し、生活しながら6か月を目途に自立を目指してもらうのが事業の大筋だが、個々人の状況によって期間は変わってくるという。その間、常勤、非常勤合わせて5名のスタッフが手分けしてシェルターを回り、面談、役所やハローワークなどへの同行といった支援を行い、さらに自立後も継続的な相談支援、就労支援を通じて、地域社会で孤立無援にならないようなケアを行っている。

「社会性を身に付け、仲間づくりの大切さを理解してもらうという意味で、週2回、自由参加の食事会を開催しています。そこには以前に支援した人が参加してくれたりして、被支援者が支援者になるというサイクルが生まれています。予算の確保や関係機関の無理解など課題はたくさんありますが、犯罪者を生まない社会の構築をやりがいに、今後も地道に活動を続けていきたいと思っています」と、野田さんは話す。

さらに、チェンジングライフでは助成を活用し、児童福祉、少年司法、社会福祉などの専門家を招いて「制度の隙間に落ち込んだ子どもたちの支援を考える」と題した活動報告シンポジウムを11月4日に大阪市で開催した。基調講演、実践報告、パネルディスカッションで構成されたシンポジウムに全国から約200名の来場者があった。「この問題に関心を持ってくださる方がこんなにいらっしやることに驚きました。実施してよかったです」と野田さんは話す。



シンポジウムには多数の来場者が集まった



シンポジウムで講演する理事長の野田さん

助成団体: 特定非営利活動法人 チェンジングライフ <https://changinglifehome.jimdo.com>



活動を続けるうえでの勇気をいただいたことに感謝しています

自前では2、3名が限度ですが、助成のお陰で6名を支援できました。中には大学に進学した子もいて、未来につながる支援になったと思います。シンポジウムも今後の活動を考えるうえでいい機会になりました。それがきっかけで、賛助会員も15名ほど増えました。再犯を減らせば、それだけ被害者も少なくなるわけですから、今後も支援の手を緩めずにやっていきたいと思っています。

NPO法人 チェンジングライフ
理事長 野田詠氏さん